

## 5. 教師の状況

教師 1 人あたりの学習者数は 73.3 人で 2006 年調査の 67.2 人を上回る。  
日本語母語教師の割合は、北米、西欧で高い。

「1. 世界全体の日本語教育の状況」でも触れたとおり、日本語教師の数は 49,803 人で 2006 年調査と比べて 12.4%増加している。1 機関あたりの教師数は 3.34 人となり、2006 年調査の 3.25 人と比べてわずかながら増加している。また、教師 1 人あたりの学習者数は 73.3 人となり 2006 年調査と比べて明確に増加している。(表 2 1 機関あたりの教師数・教師 1 人あたりの学習者数)

表 2 1 機関あたりの教師数・教師 1 人あたりの学習者数

	教師数 (人)	機関数 (機関)	学習者数 (人)	1 機関 あたりの 教師数 (人)	教師 1 人 あたりの 学習者数 (人)
2009年	49,803	14,922	3,651,179	3.34	73.3
2006年	44,321	13,639	2,979,820	3.25	67.2
増減率(%)	12.4	9.4	22.5	0.09	6.1

- ※ 2009 年調査において 3 機関について教師数が不明であることから、本表における機関数は 14,922 機関、学習者数はその 3 機関に在籍する学習者を除いた 3,651,179 人としている。(全体では 14,925 機関、3,651,232 人。)
- ※ <台湾>の(財)交流協会の調査の数値を含む。

日本語母語教師数は、14,022 人で 2006 年に比べて 6.3%増加した。しかし教師数が 12.4%増加したことから、教師数全体に占める日本語母語教師の割合は 2006 年調査での 29.8%から 28.2%と 1.6 ポイント減少している。(表 3 世界全体の教師数・日本語母語教師数)

表 3 世界全体の教師数・日本語母語教師数

	教師数 (人)	日本語母語 教師数 (人)	日本語母語 教師の割合 (%)
2009年	49,803	14,022	28.2
2006年	44,321	13,197	29.8
増減率(%)	12.4	6.3	▲ 1.6

- ※<台湾>の(財)交流協会の調査の数値を含む。

学習者数上位 20 か国の教師の状況を見ると、日本語母語教師数は米国で 2,759 人と最も多く、次いで中国が 2,479 人、韓国が 1,018 人となっている。日本語母語教師数が 1,000 人を超えるのは、上記 3 か国のみである。

日本語母語教師の割合を見ると、7 割を超えているのがシンガポール (80.0%)、フランス (78.2%)、ドイツ (78.5%)、米国 (77.9%)、英国 (76.1%)、カナダ (75.6%) となっている。日本語母語教師数の多かった韓国、中国は教師数そのものが多いことからともに 15% 程度に止まっている。(表 4 国・<地域>別教師数・日本語母語教師数)

表 4 国・&lt;地域&gt;別教師数・日本語母語教師数

順位	国・<地域>	教師数 (人)	日本語母語 教師数 (人)	日本語母語 教師の割合 (%)
1	韓国	6,577	1,018	15.5
2	中国	15,613	2,479	15.9
3	インドネシア	4,089	147	3.6
4	オーストラリア	2,547	919	36.1
5	<台湾>	3,938	766	19.5
6	米国	3,541	2,759	77.9
7	タイ	1,240	452	36.5
8	ベトナム	1,565	392	25.0
9	<香港>	734	303	41.3
10	カナダ	739	559	75.6
11	マレーシア	388	170	43.8
12	フィリピン	422	96	22.7
13	ニュージーランド	258	70	27.1
14	ブラジル	1,167	489	41.9
15	英国	742	565	76.1
16	インド	484	91	18.8
17	フランス	542	424	78.2
18	シンガポール	225	180	80.0
19	スリランカ	157	23	14.6
20	ドイツ	428	336	78.5
	全体	49,803	14,022	28.2

※<台湾>の数値は(財)交流協会の調査による。